

# チームでつなぐ、就学の道のり

不安だらけのスタートから、「楽しい！」に変わるまで。  
ある先輩ママと男の子の体験ノート



発行：糸満市教育委員会

# スタート地点：孤独とパニックの中での「気づき」

時期：2～3歳ごろ  
状況：県外からの引っ越し直後。下の子の産前産後の一時保育を利用。

「母親以外を認識していない…」

「友達を物と思って突き飛ばしてしまう」

「発語がほとんどない」

「友達を物と突き飛ばしてしまい」

「痛みに鈍く、血が出ても反応がない」

「痙攣を起こしてテレビに物を投げ、窓ガラスに激突して割ってしまう」

園からの勧めで「発達検査」へ。これが、孤独な子育てから抜け出す第一歩でした。

# パニックの裏側を「翻訳」する：発達検査がくれた明確な地図

## 表に現れていたSOS

- ・窓ガラスを割るほどの痙攣
- ・友達とのトラブル
- ・無反応

発達検査で  
「自閉症」と診断・  
特性の把握

## 客観的に見えた「本当の姿」

- ・得意：運動面に遅れなし！  
体を動かすのが大好き。
- ・苦手：言語や社会性がまだ  
育っていない。

特性に合わせた療育選び：

- ✓ 言語面を伸ばせる施設
- ✓ ダイナミックに外遊びができる施設

# 就学先選びのジレンマ：「特別支援学校」か「自閉・情緒クラス」か

	2～3歳時点の想定	年長時点での現実
園での様子	集団生活が困難。飛び出しあり。マンツーマンの加配が必須。	言語の発達と共に痙攣が減少。園とデイの連携で目標達成が可能に。
親の正直な気持ち	「特別支援学校も検討しないといけないのかな…」	「小学校の情緒クラスで頑張れるかもしれない！」

*Growth!*

*Change in perspective*

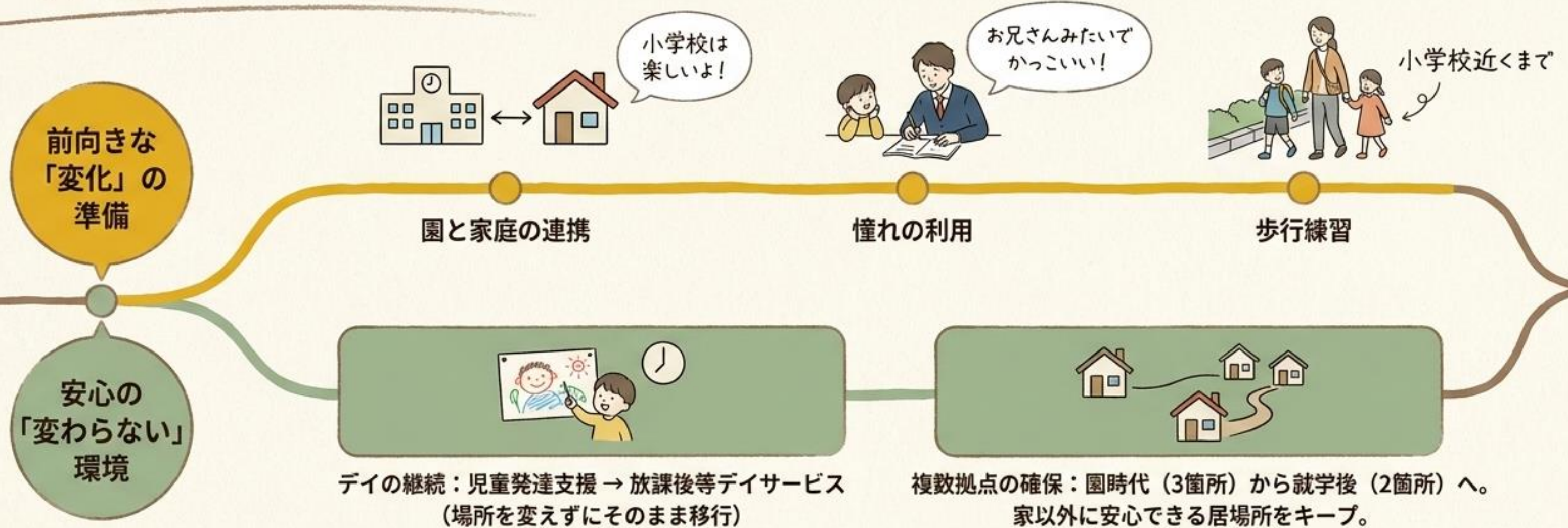
**最終決定：通常校の「自閉・情緒クラス」**

「支援学級にずっといることが目標ではなく、そこを経て学校生活に馴染んでいくことがこの子の最善。」

# パニックを防ぐ「見通し」の設計図

## 「見通し」の設計図

⚠️ 特性：新しい環境が苦手。見通しのつかない状況でパニックを起こす。



変化のストレスは、「変わらない安心」と「憧れ」で包み込む。

# 特性を「才能」に変換する：現在のリアルな1日



# 「ひとりで抱え込まない」：子どもを真ん中に置いたチーム支援



憧れのお兄ちゃん



保育士さん  
(目標の共有)



心理士さん/  
発達専門の小児科



シングルマザーでも、  
ひとりじゃない



小学校の担任の先生  
(特性とやる気の共有)



デイの相談員さん・スタッフ

「いろいろな大人と保護者が連携して、  
子どもを『一緒に育ててもらって  
いる感覚』でいました。」

# 今、不安でいっぱいの保護者の方へ

## 行動のヒント

「早めに発達検査を受けて実態を把握できたのが大きかったです。何に困っているかが分かれば、合う環境を選べます。」

## 視点のヒント

「特性は消すものではなく、活かすもの。こだわりやルーティンも、良い方向に向けば強みになります。」

## 最大のメッセージ

「お母さんがひとりで悩んだり、抱え込まないで。助けてもらえるところを、少しずつ増やしていくのが良いと思います。」

